



浜川目沢田 I 遺跡発掘調査

現地説明会資料

ようこそ



平成 26 年 10 月 18 日 (土)

はじめに

しもへいぐんやまだまおおさわはまかわめだい 11 ちわり
浜川目沢田 I 遺跡は下閉伊郡山田町大沢浜川目第 11 地割に所在する遺跡です。
6 月から高台住宅移転事業に関連して遺跡の一部を発掘調査してきました。

調査機関：(公財) 岩手県文化振興事業団 埋蔵文化財センター
調査期間：平成 26 年 6 月 1 日～11 月 30 日 (予定)
調査面積：6,240 m² 調査担当者：須原拓 久保賢治

浜川目沢田 I 遺跡は どんな遺跡？

浜川目沢田 I 遺跡は縄文時代の遺跡です。
海(山田湾)から 200～300m ほどに位置し、標高 2～7m の低い場所に立地します。

調査は海側の「南側調査区」と山側の「北側調査区」に分けて行っています。どちらの調査区からも竪穴住居跡や土坑がみつかり、縄文人がこの場所で暮らしていたことがうかがえます。ただし、この 2 つの調査区は
南側調査区→縄文時代晩期 (3,200 年前)
北側調査区→縄文時代中期 (4,000～4500 年前)
というように、縄文時代のなかでも異なる時期の集落(ムラ)であることが分かってきました。



上空から見た浜川目沢田 I 遺跡

南側調査区 (縄文時代晩期)

竪穴住居跡(縄文時代の家のあと) 2 棟 / 土坑(何に使った? 穴のあと) 4 基
みつかった縄文土器や石器 コンテナ 50 箱以上

☆標高 2m 前後の非常に低い場所に立地します。当時は目の前が海だったかもしれません。まだ調査中で、全容がつかめませんが、みつかった竪穴住居跡の数からも小規模なムラであったことがうかがえます。下の写真のように、たくさんの縄文時代晩期の土器や石器、また土偶がみつかったのが特徴です。



土偶

北側調査区 (縄文時代中期)

竪穴住居跡(縄文時代の家のあと) 12 棟 / 土坑(何に使った? 穴のあと) 9 基
縄文土器や石器を捨てた場所(捨て場) 1ヶ所
縄文土器や石器 コンテナ 200 箱以上

☆調査区の中央の平坦な場所に、ムラが営まれていたようです。標高は 7m 前後と低い場所ですが、南側に山田湾を望む、景色のいい場所です。

竪穴住居跡は縄文人が暮らした当時の家のあとです。右写真のように床や柱の穴、また「炉」と呼んでいる囲炉裏の跡のみがみつかりますが、当時は右下復元図のような家であったと想像しています。形は円く、大きさは直径 7m 前後です。

「炉」は大きな石を並べて、上手に作られています。右上写真の真ん中から下側に「炉」が写っていますが、赤色に見えるのは、燃える火によって炉の中が変色したためです(実際に現地をご覧ください)。

みつかった竪穴住居跡群は重なっているもので、幾時期かにわたり、竪穴住居を作り変えながら、ムラが営まれたものと想像します。

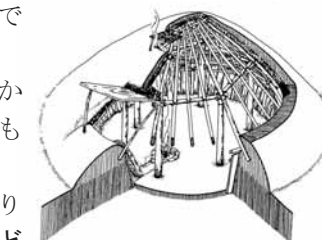
住居群の南側に大量の土器や石器が出土した場所があります。緩やかな斜面地で、縄文人が壊れた土器や石器などを捨てていた場所(捨て場)ではないかと考えています。

左下の写真は捨て場から縄文土器や石器が見つかった様子を撮影したものです。捨て場からは縄文土器だけでもコンテナ 100 箱以上みつかり、中には芸術的な形をした土器もありました。また、3cm 大の石製垂飾品が 1 点みつかり(右下写真)、色や重さからヒスイ製ではないかと考えています。ヒスイであれば山田町で 2 例目となり、大きな発見といえます。

たくさんの縄文土器や石器、また貴重な石製品をもっていた浜川目沢田 I 遺跡の縄文集落は非常に豊かな生活を営んでいたのかもしれない。



竪穴住居跡



復元図(一戸町御所野遺跡)



捨て場の様子



みつかった縄文土器



石製垂飾品(ヒスイ製か)

